

ロンドン、2021年2月25日

中国の桂林萍鋼で新型電気炉 EAF Quantum とレードル炉が操業を開始

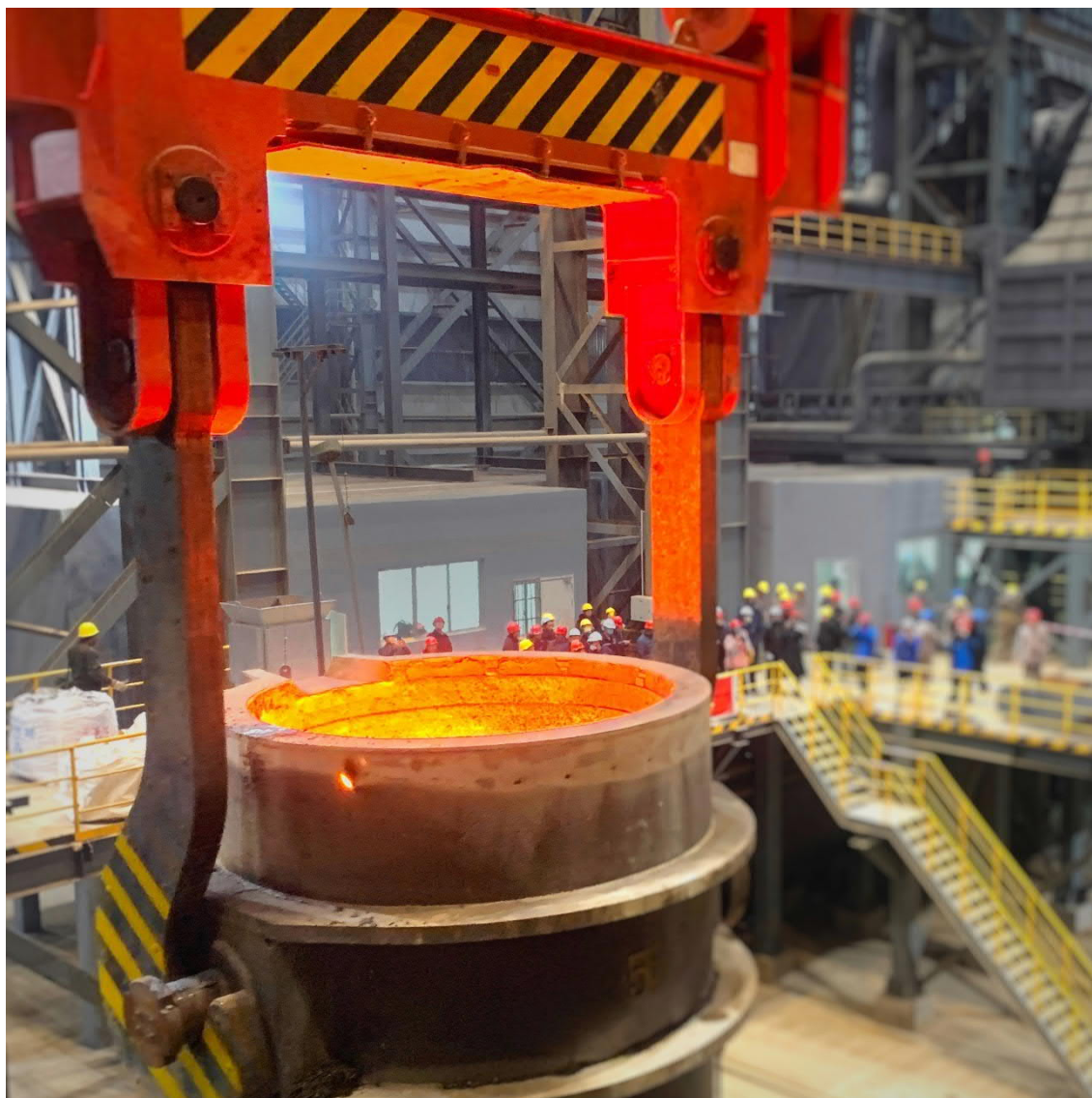
- 新型電気炉 EAF Quantum 炉の出鋼量は 120 トンで、多様なスクラップの装入が可能
- ツインレードル炉の溶鋼処理能力は 120 トン
- 溶鋼 1 トン当たりの電力消費量が大幅に低減
- 操業コストと CO₂ 排出量の削減を実現

プライメタルズテクノロジーズ（Primetals Technologies）が中国の鉄鋼メーカーである桂林萍鋼鋼鉄有限公司（以下、桂林萍鋼）に納入した出鋼量 120 トンの新型電気炉 EAF Quantum と同 120 トンのツインレードル炉が操業を開始しました。新型電気炉 EAF Quantum は、さまざまな組成や品質のスクラップを処理できるよう設計されています。スクラップの予熱により、電気炉に必要な電力量は大幅に低減され、操業コストと CO₂ 排出がいずれも削減可能です。この 2 つの炉は、棒鋼市場の成長への対応を目的として、中国の広西チワン族自治区の桂林近くに位置する平楽に新設される工場に納入されました。

桂林萍鋼は、広西チワン族自治区桂林市近くの平楽県を拠点とする民間企業です。年間生産能力は 125 万トンで、建設業界向けに鉄筋、線材などの鉄鋼品を生産しています。当社は、新型電気炉 EAF Quantum とツインレードル炉の機械・電気処理装置一式を供給し、残りの周辺設備とサービスは、現地の設計機関が提供します。

当社が開発した新型電気炉 EAF Quantum は、実績のあるシャフト炉技術と、革新的なスクラップ装入プロセス、高効率の予熱システム、新傾動方式の下部容器、そして最適化された出鋼システムを組み合わせることで、出鋼時間間隔の大幅な短縮を実現しています。従来の電気炉に比べて電力消費量が大幅に低減されており、電極と酸素の消費量低減と相まって、全体として約 20% の処理コストの低減ができます。CO₂ 総排出量も、従来の電気炉と比較して粗鋼 1 トン当たり最大 30% 削減されます。

注：萍は、草カンムリの下に、サンズイ偏と平のツクリ



桂林萍鋼の新型電気炉 EAF Quantum による最初の出鋼

他言語（英語・ドイツ語・中国語・ポルトガル語・ロシア語）による（プレスリリース及び資料は、以下の URL よりご覧になれます。 www.primetals.com/press/

報道関係お問い合わせ先:

プライメタルズ テクノロジーズ ジャパン株式会社 社長室（広報担当：山下）
〒733-8553 広島市西区観音新町四丁目 6-22 三菱重工業（株）広島製作所内
電話 082-291-2181

プライメタルズ テクノロジーズ 公式ツイッター: twitter.com/primetals

Primetals Technologies, Limited
A joint venture of Mitsubishi Heavy Industries and partners
Communications
Head: Gerlinde Djumlija

Chiswick Park, Building 11, 566 Chiswick High Road
W4 5YS London
United Kingdom

Reference number: PR2021022240jp

プライメタルズ テクノロジーズ (Primetals Technologies, Limited)は本社を英国・ロンドンに置き、金属鉄鋼産業におけるエンジニアリング、プラント建設、およびライフサイクルサービスの提供を行うパイオニアかつ世界的リーダーです。当社は電機、オートメーション、デジタル化、及び環境の総合ソリューションを含めた技術、製品、サービスの一式を提供しており、原材料から完成品まで鉄鋼のあらゆる分野を網羅するだけでなく、非鉄分野でも最新の圧延ソリューションをお届けします。当社は三菱重工およびパートナーの出資によるグループ会社で、従業員数は全世界で約7,000人です。詳しくは、下記 URL より当社公式ウェブサイトをご覧ください。

公式ウェブサイト : <https://www.primetals.com/jp>